

校長室より

第4号

「天空高き」



平成22年6月14日

高水学園のルーツ「楽学の碑」を訪ねて



六月四日に中学一年生五十六名が高水学園発祥の地、周南市（旧熊毛郡）高水を訪れ、諸先輩方のご助力により田植えをしました。今年で三年目になりますが、全員が田んぼに入って足を取られながらも貴重な体験を積むことができました。十月には稲刈りを行い、自分達で収穫した稲から

米の試食、そして十二月には稲わらでしめ縄作りをする予定です。

午前中に田植えを終えた後は、烏岳峰に登り、声高らかに校歌を歌いました。下山後は「高水村塾之址」を見学し、周南市文化財に指定されている「楽学の碑」の前で渡辺碩第六代教頭から、明治三十一年の高水村塾創立の経緯、および昭和二十九年の岩国に転出までの高水中学校・高等学校の歴史をお聞きしました。

中学一年生の野外活動は、本学園の精神的シンボルになっている「楽学の碑」を訪ね、大先輩の方々のお世話になりながらの田植えや烏岳峰登山は、まさに校訓の「師弟親愛」「堅実明朗」「勤労実践」に触れる素晴らしい体験学習の場です。「故きを温ね新しきを知る」ということわざの意味をあらためて思い起こさせてくれました。



第19回FIFAワールドカップ2010南アフリカ大会開幕！

6月11日から7月11日まで1ヶ月に亘り南アフリカ共和国で開催されます。サッカーに興味のない人もこの期間中はそのニュースに触れない日はないと思います。世界中の多くの人が釘付けになります。実は私もその一人で待ちに待っておりました。

W杯を知ったのは1974年西ドイツ大会で、初めて現地で観戦したのは1998年フランス大会でした。2002年は日本と韓国の共催で、2006年はドイツでありました。4年毎に開催されるので、私は大会が終われば次の大会に向けてワールドカップ貯金なるものを開始して旅費等に充てていましたが、今回はテレビ観戦になりそうです。

この大会の魅力は、各大陸で予選を突破してきた32カ国の選手、監督、スタッフ達が国の威信と名誉を賭けて闘うことです。数多くあるスポーツの一つにすぎないサッカーですが、なぜこれほどまでに多くの国々でたくさんの人々が熱狂するのでしょうか。ある面では歴史と文化の闘いになるからでしょうか。みなさんはどのように考えますか。

日本代表は果たして予選突破なるでしょうか。山口県出身の岩政選手の出番があるのか。楽しみですね！

余談になりますが、イタリアでの出来事を紹介しましょう。

ファッションのメッカ、イタリアのミラノ。市内のあちこちを歩き回りました。

駅で電車を待っていると、チンチン電車がやってきました。私は電車のドアが開くなり大急ぎで乗りました。ところが、うっかり60オくらいのご婦人の左足を踏んでしまいました。

「エクスキューズ ミー」と謝ったところ「サンキュー ワンスモア プリーズ」と言うので、私は何度も謝りましたが、「ドント マインド」を繰り返すばかりでした。

その後、言葉はイタリア語に変わりました。イタリア語の得意な友人によると、「あなたのような若い人に足を踏まれ、若返ったような気がして幸せです。」ということでした。

私は、普段日本人が持っていないユーモアというものを学んだ気がしました。

一般常識テストにチャレンジ！

昭和57年(1982年)に実施された一般常識テスト(裏面)です。前回と同様、第2代山本真喜雄校長先生が作成されました。当時全校生徒、中1～中3、200名中64点以上が36名でした(中1―5名、中2―11名、中3―20名)。当時在籍していた保護者の方が多数おられます。家族でチャレンジしてみてください。

高水高等学校附属中学校

校長 前田 茂雄